

## 新しい時代の同窓会へ..!

●平成26年度浦高同窓会・総会が無事終わる!

昨25日(日)午後2時から、浦和ロイヤルパインズホテル4階ロイヤルクラウンにて、「平成26年度浦和高校同窓会 総会」が開催されました。

開会にあたり川野幸夫会長からご挨拶【写真①】。



「最近、首都圏の教育界では“三兎を追え”という言葉が広まっています。東大入試などの学業面だけでなく、“尚文昌武”の

精神の下でラグビー部の54年ぶりの花園出場に代表される後輩たちの全国での活躍により母校浦高への注目が集まっており、今や埼玉の浦高から日本の浦高、さらには世界のリーダーたる人材を輩出する学校へと進化しております。私たち同窓会の役割は浦高生の支援が第一ですが、百年の森事業、奨学財団など同窓会独自の大きな事業を進めており、同窓会の活動量も役割も、これまでに比べて大きく変わりつつあります。そういう意味からも、同窓会が過渡期に来ていると思っております。そこで、新しい時代にふさわしい同窓会を作りたいと考え、議案の中では同窓会のあり方検討委員会などの提案もございます。また、浦高創立120周年記念事業として位置づけた奨学財団についても、昨年12月に公益財団認可をいただき順調にスタートいたしました。同窓会が奨学財団を設けるといのは、国内でも初の試みであり、インテリジェンスの高さに評価をいただいております。これまでも百年の森事業、ラグビー部特別後援会とご寄付をお願いしてきましたが、奨学財団の運営には継続的な資金提供が必要でございますので、会員の皆様には末永くご支援賜りますようお願い申し上げます。」

続いてご来賓の杉山剛士浦和高校校長のご挨拶。

「同窓会総会が盛大に行われますことをお祝い申し上げます。私も浦高校長となり2年目に入りました。昨年度は



ラグビー部の花園54年ぶりの出場に際して多大なご支援をいただき、皆様に感謝申し上げます。花園では、年代や地域を越えて集まってくださった皆様のスタンドを揺らす声援は、選手たちには忘れられない光景だったと思います。浦高の教育は、“尚文昌武”と合わせて前任の関根校長からの“世界のどこかを支える人間になれ”、“少なくとも三兎を追え”、

“無理難題に挑戦せよ”であります。常に進化しつづけることであると思います。そこで、今年は“スーパー・グローバル・ハイスクール”に指定されました。これは全国5081校の中で56校が指定されたもので、校歌にある“広き宇内に雄飛せん”を体現できる学生たちの育成をしていきたいと考えております。自分の役割は、埼玉、日本の浦高から世界を目指すことだと考えております。同窓会の皆様には引き続きご支援を宜しくお願い申し上げます。」

\* \*

議事に進み、以下の3議案に対して全会一致で承認された。

◇第一号議案 平成25年度事業報告案及び決算案の承認について 監査報告

◇第二号議案 平成26年度事業計画案及び予算案の承認について

◇第三号議案 役員改選について

25年度の事業の中では、母校創立120周年事業として進められている“公益財団法人県立浦和高等学校同窓会奨学財団”の設立(2,900万円を財団へ支出)が特筆されます。その結果、次期への繰越金は5,000万円余となりました。また、26年度事業計画では、9月13日(土)~14日(日)に開催される“浦高祭”の中での“百年の森展示会”が予定されるとともに、“同窓会のあり方検討委員会”が設置されます。

さらに、役員改選では、川野幸夫会長(高13、株式会社ヤオコー会長)が4選され、副会長には加瀬豊氏(高17、双日株式会社代表取締役会長)、木村恵司氏(高17、三菱地所会長)、岩淵均氏(高18、関東図書株式会社代表取締役)、野辺博氏(高24、弁護士)の4人が新たに選出され、3期目の小室正人氏(高19)と合わせて5人体制となりました。また地域職域同窓会からの推薦で9人の常任理事が新任され、監事には新たに高橋宜治氏(高22、株式会社ワイズ・ステージ代表取締役)が選出されました。

4期目を迎えた川野会長からは、「5人の副会長には、それぞれの役割分担の中で働いていただくとともに、新たな時代にふさわしい同窓会づくりを一緒に進めてもらいたいと考えています。」と、役員を増員について意向が述べられました。

報告事項では、“公益財団法人県立浦和高等学校同窓会奨学財団” “麗和知的財産委員会” “浦高ラグビー部全国大会出場特別後援会”



の活動などが報告され、浦高経営者研究会から奨学財団へ100万円の寄付や画家の佐藤義夫氏(高9)から水彩画【写真③】の寄付なども行われ、総会出席者は約250名でした。